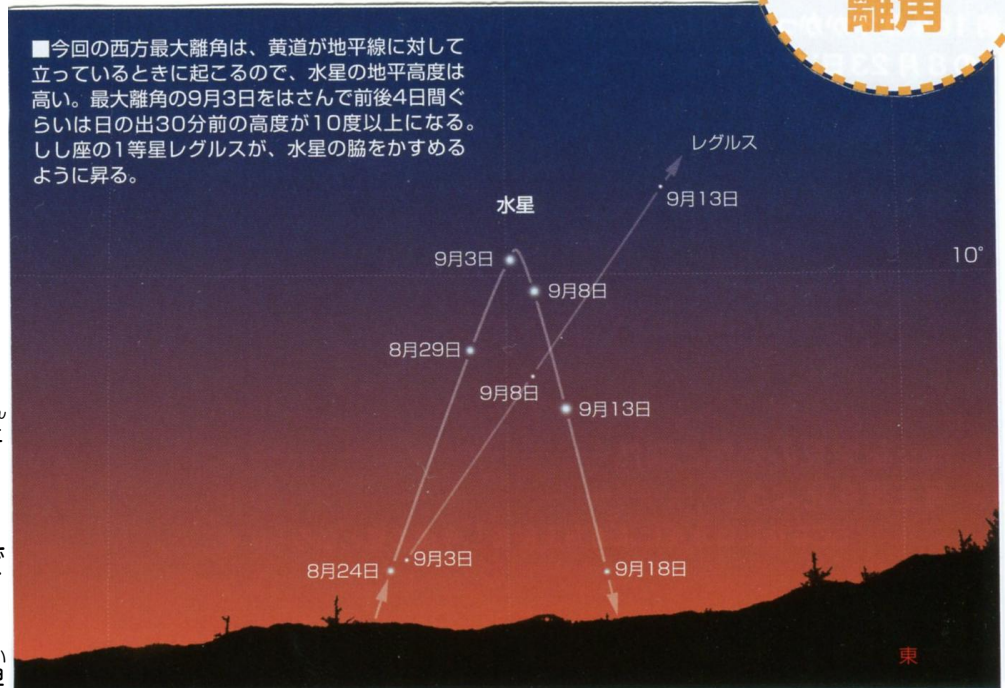
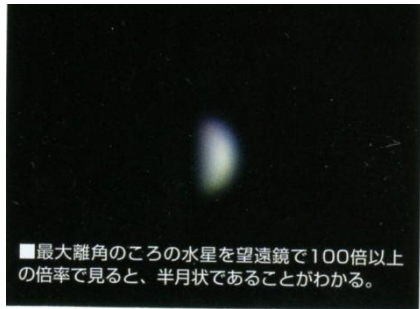


# ☆天文にゆうす☆ 2011年9月号

Check!  今年いちばん見つけやすい明け方の水星

9月  
3日  
朝方

水星が  
西方最大  
離角



太陽に近いため、水星を見る  
ことができるチャンスは極めて  
少ないが、今年最高の好条件  
となる西方最大離角が9/3  
に訪れる。この日をはさんで  
8月下旬から9月中旬  
にかけて、明け方の東の空で水星  
が特に見やすいので、是非注目してほしい。

日の出30分前、空は朝焼けで明るさをぐんぐん増しているが、高度10度程の所で0等級で光る水星は、空の透明度さえ良ければ意外と簡単に見つかる。もし肉眼で見つからない時は、双眼鏡を使ってみると良いだろう。

水星は、地球より内側を回る惑星なので、望遠鏡で見ると金星と同じように満ち欠けする様子が分かる。ただ、金星より視直径が小さい上、低空でシンチレーションの影響を強く受けるので、かなりの難物。最大離角のころを狙って、100倍ぐらいで覗いてみよう。半月状に見えたらラッキーだ。

# ☆天文にゆうす☆ 2011年9月号

Check!

☑ 「不思議な星」は何等級になっているか?

変光星  
ミラが  
極大の頃

9月  
7日  
深夜



■9月上旬の午後11時には、くじら座は南東の空に姿を見せている。ミラの高度は20度近くある。ミラが極大光度に達していれば、くじら座のβ星デネブカイトスと明るさを競っていることだろう。

東

視野円7"

くじら座のミラという名の星は、あるときは2等星として輝き、またあるときは10等まで暗くなり夜空から姿を消してしまうという人騒がせな星である。この星の変光を最初に発見したのは、ドイツの牧師ファブリチウスだった。彼は1596年8月13日の夜、偶然目に入った3等星が、これまでの星図に載っていない事に気がついた。ファブリチウスは以後、この星の観測を続け、8月末に2等になりその後どんどん暗くなり10月には見えなくなってしまったことを発見した。しかし、この星が周期的に明るさを変える変光星であることは、1600年代になって多くの人々が継続観測するまでわからなかった。ミラという名は、この星を熱心に観測したヘベリウスがステラミラと呼んだことにちなんでいるという。ミラクルのミラでもある。ちょうどクジラの胸元で光るこの星、変光がまるで化けくじらの心臓の鼓動のようにも見える。ミラは平均周期331.6日というサイクルで、星自身が縮んだり膨らんだりしながら、2等から10等まで壮絶に明るさを変える脈動変光星だ。これは星として一生の終わりを迎えつつある赤色巨星なのだ。